ninoyu satoshi
発行所:自由民主党京都府参議院選挙区第三支部
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310
発行人:二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。　題字:栢木寛照

えとす
平成27年6月号
No.277

京都の智恵を日本に活かす。

二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

国会延長で安保法制の成立を期す
思わぬ問題が立ちはだかる

集団的自衛権は合憲と強気の政府

安倍首相はオバマ大統領と会談して、日米の同盟強化を確認、集団的自衛権行使を可能とする安保法制の成立を約束した。国会の審議でもやや冗舌すぎるぐらい自信満々の安倍首相である。順調と思われていた国会審議であったが、衆議院憲法審査会で参考人として招致した3人の憲法学者が、自民党の推薦の学者も含め、現在、上程されている安全保障法案は、憲法違反であると述べた。与党が推薦した学者までもが、憲法違反とは想定外のことである。野党は、多くの学者が、憲法違反だと言っている安全保障法案を、今国会で急いで成立させる必要がないと息巻いている。政治の世界は一寸先が闇とはよく言ったものである。日本年金機構の個人情報の漏洩、参考人の意見陳述、思わぬ問題が現れる。通常国会の会期末は6月24日であったが、政府自民党は、不退転の決意で安保法制の成立を期す意向であり、9月27日までの大幅な国会の延長に踏み切った。

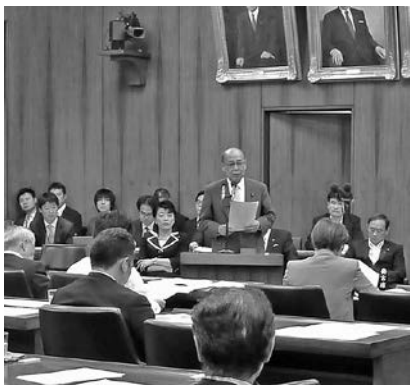
平和安全特別委員会で高村副総裁からの質問に答える安倍首相(衆議院第一委員室)

恒心

★来年のG7サミット(先進7カ国首脳会議)は日本で開催される。8都市が開催誘致に名乗りを挙げた。名乗りを上げるだけに、どの開催地もそれぞれ特色があり、安倍首相の言うように「どの都市も甲乙つけがたい」は正直なところだろう。★今年のサミットは、6月7、8の両日ドイツのエルマウで開催された。首相の出発前には、開催地が発表されると言われていた。前夜、京都の神社関係者と懇親会を開いていた。その席上、サミット会場の話題が出た。仙台、広島も良いが、伊勢志摩は日本の原点であり、私は、たぶん伊勢志摩だろうと話した。★予想通り、伊勢志摩に決まった。候補地の決め手は、警備のし易さ、十分な宿泊施設、アクセスの良さなどである。伊勢志摩はその点に関して満点ではないが、日本の歴史の原点である伊勢神宮があり、何より美しい自然がある。★サミット会場は賢島のホテルになると思うが、是非外国の首脳に伊勢神宮にまで、足を運んでもらいたい。きっと感動してもらえるに違いない。伊勢神宮のあの神域は独特の雰囲気を持っている。また、日本の古い歴史、文化を知ってもらえるいい機会でもある。★サミットが伊勢志摩に決まって、京都の国際会議場の関係者が、なぜ伊勢志摩なのかと、驚き、京都にならなかったことを残念がっていたと聞いた。しかし、今回、何故か、京都はサミット誘致に名乗りもしなかった。声も出さない所に指名はされない。★京都は日本を代表する歴史都市、文化都市でもある。しかし、国際会議場はともかく、ホテルも不足している、道路交通網の不備で警護の面で不安がある。サミット開催中、交通規制で、狭い京都の都市機能はマヒしてしまうのではないか。市民がそれを受け容れるか、それもまた大きな問題である。

総務副大臣の公務の一コマ

衆議院厚生労働委員会



6月3日　衆議院第16委員室

平成27年度
「電波の日・情報通信月間」記念式典

6月1日　ホテルニューオータニ大阪

参議院政治倫理の確立及び
選挙制度に関する特別委員会

6月1日　参議院第1委員会室

平成27年度行政書士総務大臣懇親会

6月18日　シェラトン都ホテル東京

「消防団新法」をめぐる意見交換会

6月18日　日本消防会館

第91回全国市議会議長会定期総会

6月17日　日比谷公会堂

大詰めの参議院選挙制度改革
まとまらない自民党改革案

来年の参議院選挙は、おそらく7月中旬に実施されるであろう。選挙制度の改革案は、1年の周知期間が必要とされるので、遅くとも6月中には改革案を成立させなければならない。最高裁から1票の格差が違憲状態に近いと判断されている以上、その判決に耐えうる選挙制度改革案を纏めなければならない。しかし、最大会派の自民党議員団は6増6減案から一歩も進んでいない。自民、公明の与党間協議でも、公明党は格差2倍以内を主張しているため、意見がまとまらず、公明党は協議を打ち切った。その後、公明党は20県を10に合区して6議席減、6都道県で6増して、格差1.953倍となる案を発表した。一方、野党4党（維新、日本を元気にする会、次世代の党、新党改革）は1票の格差が2.974倍となる10増10減案で合意した。脇自民党幹事長が提案した案に近い。民主党は党内の意見が固まっていないが、合区を認める方針である。参議院全体として、一部合区を前提として、改革が進んでいる。自民党が議員団の意見を集約できず、このままずるずると引き伸ばしてしまうと、自民党を除く会派が結束して、合区も含め、かなり思い切った改革案になる可能性が高くなる。もしそうなれば、昨年、最高裁判決を十分に考慮し、違憲状態を解消する試案をまとめた脇氏を独断専行と批判し、幹事長を更迭した責任が問われかねない。今、安全保障法制が国会で審議されている。野党はじめ多くの憲法学者が法案は憲法違反だと主張している。これに対して、政府自民党は砂川事件での最高裁判所の判決を錦の御旗に、最高裁は集団的自衛権を認めていると反論している。最高裁判所の判決は重くて、権威のあるものであるということである。格差問題も、同様で、最高裁の判決は無視できない。しかし、参議院自民党議員団のかなりの数の議員が、最高裁判決を深刻に考えていない様子である。最高裁何するものぞと高を括っている感じがする。自民党がいつまでも抜本的な改革案を示せないでいると、世論は自民党に厳しくなってくる。6月17日に行われた党首討論で、民主党の岡田代表、維新の党の松野代表は、安倍首相に対して、参議院選挙改革のため、党総裁として指導力を発揮するように迫った。首相は「4会派の10増10減案を評価する。自民党総裁として、出来るだけ努力する」と表明した。残された時間は、そう多くはない。選挙区の変更、定数の削減は、議員にとって死活的に重要である。しかし、財政が厳しい時代、国民に協力を求める為にも、議員は率先して範を垂れることも大事である。会長、幹事長は早急に、合区、定数減となる選挙区の議員を説得し、理解を求め、与党第一党としての責任を果たす必要がある。

新幹線開業で関西の危機
急を要する関西地域のルート

3月14日、北陸新幹線が金沢まで延伸した。開業から3ヶ月が経過、新幹線の乗車率は、先ずは順調な滑り出しである。金沢行き新幹線「かがやき」、在来線の乗車率も想定以上に伸びており、新幹線効果が着実に現れている。終点の金沢は、連日多くの観光客で賑わい、金沢の台所である近江町市場は非常な活況である。ホテルも予約が取れない。金沢だけでなく、富山も効果が現れているようである。温泉地では、黒部宇奈月駅に近い宇奈月温泉が賑わっている。さて、北陸地方、とりわけ富山県高岡以西は、かっては関西経済、文化圏であると言われていたが、新幹線開通後、金沢までもが、東京経済圏に組み込まれてしまう可能性が強まってきた。関西の地盤沈下に一層拍車がかかる恐れがある。その流れを食い止めるために、北陸新幹線の大阪までの一日も早い延伸が急がれるが、どのルートにするのかについて、関西各府県で意思統一がなされていない。早急な整備では意見が一致するが、各論になると意見が分かれる。福井から大阪まで、どのルートにするのか、約50年前から、各自治体で陳情合戦が繰り返されてきたが、最近は誘致活動も停滞気味であった。金沢までの開業、そして敦賀までの延伸決定で、最近、関西も動きが活発になってきた。敦賀から大阪までのルートは、現在のところ、3案が考えられている。①福井県小浜から京都丹波ルート、②福井県敦賀から北陸線を通る米原ルート、③敦賀から湖西線に乗り入れるルートである。それぞれのルートの長所、欠点、建設費、将来性などを検討し、整備新幹線の一日も早い完成を目指していかなければならない。

東京駅から出発する金沢行・かがやき

大丈夫か18才からの投票権
必要な高校現場での主権者教育

18才以上に投票権を付与する法案が、6月15日の参議院「政治倫理の確立及び選挙制度に関する特別委員会」において、全会派一致で採決され、17日の参議院本会議で可決成立した。18才、19才の新しい有権者が約240万増えることになる。直近の国政選挙から実施されるとなると、来年夏に執行される参議院選挙から適用される。選挙権の引き下げは、昭和20年に25才から20才に改定して以来の大改革である。なぜ、選挙年齢を引き下げる必要があるのか。改正案の提案者は引き下げる理由を次のように述べた。①世界の170カ国近くで、既に18才以上が選挙権、国民投票権をもっている。それによって、民主主義の基盤を深めていく。②高齢化時代の中、若年層の政治参加によって、若い人々の声を政治に反映させる。③憲法改正のための国民投票年齢を18才と定めたため、選挙権年齢との整合をはかる必要がある等である。しかし、酒、タバコ年齢との整合性がとれるのか、教育の中立性の確保ができるのか、若い世代の投票率が低い中、更なる投票率の低下を招くのではないかと心配する声も多い。これらの課題に対して総務省では文部科学省や選挙管理委員会などと連携しながら、主権者教育を一層推進し、今後制度の円滑なスタートに向けて周知啓発に取り組む予定である。特に平成27年度は高校生向けの副教材及び指導用テキストの作成・配付、明るい選挙推進協議会による学校現場での副教材を活用した出前授業を実施することを考えている。来年の参議院選挙に向けて、立候補予定者は若者の票の獲得に知恵を絞らなければならない。

新しい有権者となる高校生

'15 夏まつりのご案内

ご家族やお友達とご一緒に、懐かしい夏祭りの
雰囲気を満喫しにおいでください。

日時 8月3日(月) 16:00▶21:00
ごあいさつ 18:30　16:00から20:30まで自由に入場できます。

場所 ホテルグランヴィア京都(JR京都駅ビル内)
お食事……3F宴会場　イベント……5F宴会場

お一人様 5,000円

主催：夏祭り実行委員会
お問い合わせ：二ノ湯さとし京都事務所
お申し込み先：TEL 075-315-2228 FAX 075-315-2310

息子達と天下太平祈願
猪名部神社参拝と神楽奉納

長男武史（滋賀県選出参議院議員）の当選以来、息子達と先祖の墓参りで三重県いなべ市（旧員弁町）によく行く。員弁という地名は猪名部（いなべ）氏という豪族の名が転じたそうだ。その始祖をお祭りするのが猪名部神社だが、先日息子たちと「天下泰平」を祈願しに参拝した。猪名部氏は、奈良の大仏建立の棟梁を輩出する等優れた建築技術を有し、宮中にも仕えた。奈良の大仏と言えば、内外ともに不安定な折に世情の安定を願い建立されたもので、その関係者を祭る神社の参拝は、今回の目的に相応しい。参拝の際、息子達がお世話になっている表博耀（おもてひろあき）氏が神楽を奉納された。表氏は観光庁が認定する唯一のエンタメ観光マイスターで、神楽の創作・継承を通じた地域活性化に尽力されている。今回は、イザナギ・イザナミの国生み神話をモチーフにした神楽舞だった。新たな国生みの責任を強く感じた。

右から3番目表博耀氏、中央二ノ湯智、
左から2番目長男武史、右から2番目次男真士

「日本真生塾」　例会のお知らせ

第58回 7月27日(月) 18時30分～21時
第59回 8月31日(月) 18時30分～21時
第60回 9月28日(月) 18時30分～21時

若くして日本的社会主義の理論を構築、急進的変革思想と具体策の提示により昭和の日本政治に大きな衝撃を与えた『北一輝』の実体に迫ります。

講師：**岡本幸治 塾長**
場所：**龍谷大学アバンティ響都ホール**
（京都駅八条口前アバンティ9F）

＜お問い合わせは事務局へ＞（担当：奥井寛之）
日本真生塾事務局（二之湯事務所内）TEL：075-351-2228／FAX：075-315-2310
詳しくはFacebookページをご覧ください。https://www.facebook.com/nipponshinsei
日本真生塾　塾長　**岡本幸治**

身辺雑記

一、日本創生会議が、東京の高齢者の地方移住計画を発表した。いくら福祉施設が整っていても、人は住み慣れた土地を離れ、地方に住むだろうか。若い人を地方から吸収し、年をとったら、地方に面倒見ろとは、少し虫が良すぎる話である。

一、消えた年金記録が問題となって、社会保険庁から、日本年金機構に組織替えした。しかし、職員はそのままであって、実質、中身は変わっていない。今度は大量の個人情報が漏洩した。大胆な機構職員の意識改革が必要である。

一、衆議院の憲法審査会で、自民、公明推薦の参考人が、現在審議中の平和法制は憲法違反であると、意見を述べた。慌てたのは、自民党の幹部。まさかそんな発言をするとは、夢想だにしなかった。しかし、今となっては後の祭りである。

一、9年ぶりに、またもや出生率が低下した。官民挙げて、女性が安心して、産み、子育てしやすい環境をと、取り組んでいるが、なかなか効果が上がらない。今までの施策に問題がないか、点検する必要があるのではないか。

一、オリンピックのメーン会場の工事費を巡って、文科省と東京都が揉めている。五輪の施設整備の責任者は、国なのか、それとも開催都市なのか。入り口で揉めている様子を、世界のＩＯＣ委員はどう眺めているだろうか。

一、私の小学校3年生は昭和28年。今から61年前である。その時の担任の先生に先日電話した。86才になる先生は、私のことは覚えておられない様であったが、教え子から電話をもらって、教師冥利に尽きると非常に喜んで下さった。

後援会が副大臣室に激励訪問

市会議員時代から二ノ湯智参議院議員を支えていただいている右京区の後援会の皆様が総務省に激励に訪れて下さいました。

（於、6月22日、総務省省議室）

「えとす」購読のお願い

月刊誌「えとす」は
毎月一回の発行です。
毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、ぜひお申し込み下さい
年間購読料　1200円
郵便振替口座 01000-4-62360
口座名：みんなで政治を考える会

── お問い合わせ先 ──
二ノ湯さとし事務所
電話　075-315-2228

ホームページを開設いたしました
http://www.ninoyusatoshi.com

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会　年会費　1口1万円

入会申込・お問い合わせ先
二ノ湯さとし事務所　☎075-315-2228